

根津鋼材、DX推進

リモート・非接触業務拡大

大手コイルセンターの根津鋼材(本社=東京都荒川区、根津鋼光社長)はデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、リモートや非接触で対応できる業務を拡充した。これまで自社開発してきたさまざまなシステムをつなげることで、業務フローを刷新し、新型コロナウイルス対策にも対応している。2021年8月期から始動した3カ年中期計画では、中期テーマに「NONCONTACT(コネクタ)」を掲げ、こうしたデータ活用を加速させる方針で、受注から加工、出荷、配達まで全てが「非接触」で流れるシステムの構築に挑む。

自社開発システムをつなげて活用

同社の加工拠点の中、台もろる浦安事業所(付システムを8月から導入した。運転手は事務所に入室し、引取り作業に入る)で、以前から実現していたバーレス(顔認識)による引取り作業を、システムで自動化し、手続を完了でき、双

方にとって感染リスクを低減するメリットがある。

備え付けのカメラで検温し、顔認識で初回受付時に登録したトラックの車両番号や機載

能力を際出さず。運転手が行う作業は、手続

た領書をスキャナーに通し、現在の積載重量を入力するのみ。後は指定の出荷ヤードがモニターに表示され、積み込み準備ができたら運転手に電話(自動音声)とメールで知らせる。

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元



引取り受付を無人対応にし、事務所からリモートで品質を管理

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元、責任者のパソコン画面にもシステムが自動表示され、現場からメール端末を送られた映像や過去のクレーン発

と、事務所の品質管理生履歴などの情報を元、責任者がすくま判